



枇杷(ビワ)の花に思いを重ねて

校長 関根 祐一

空気が寒気をまとい、雪を冠した美しい富士山を望める季節になってまいりました。北校舎4階西の多目的室の窓からは、晩秋の様相に衣替えを始めた八国山の姿を望むことができ、中庭の紅葉のグラデーションも美しさとともに季節の変化を伝えてくれています。

10月18日(土)好天に恵まれ実施できました運動会では、保護者の皆様のご声援、地域の皆様のご支援をいただきまして誠にありがとうございました。当日の運営にお力添えをいただきました役員の皆様には、あらためまして感謝申し上げます。お陰様で、子どもたちは力の限りを尽くすことができ、大変素晴らしい運動会となりました。全力で競技に挑む眼差し、皆の力を結集した各組の応援、1年生のチェッコリ玉入れを全校で一緒に踊りながら応援する姿には感動させてもらいました。

音楽会での子ども達の輝きにも期待を大きくしています。引き続きご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。



さて、ご存じの方が多いかと思いますが、南校舎の西側の壁沿いに大きな枇杷の木があります。もう少し先、師走の声を聞く頃になると枇杷の木

はやさしく黄白色の小さな花を開きます。私は、この枇杷の花が好きです。寒気に引き締まり、重ささえ感じるような冬の空気の中で、やさしく、静かに、いくつもの花が支え合って可憐に咲きます。幹や枝葉に対して花はとても小さいのですが、来る初夏の結実のために、大地からしっかり栄養を吸い上げ、陽光から大きな力を生み出し、着実に準備が進んでいることを伝えます。控え目であるものの、力強く頼もしく、寒気の中に、淡くやさしい香りとともに成長の息吹、期待を感じさせてくれるからです。加えて学校の姿、子ども達はもちろん教職員も含めた“学校での学び”の姿と重ねて感じるところがあるのです。



10月、今年度2回目の学校生活に係る「なかよしアンケート」を実施しました。

今回のアンケートでも多くの児童が「学校が楽しい」と答えています。反面、「そうではない。」という思いの回答も少なからずありました。一年間の学校生活の中でも、子どもの成長過程はそれぞれであり、多くの出来事、経験を通して感じる思いも一人一人不同のものでしょう。「なかよく楽しく学び、伸びていきたい」という大切な願い・思いに答え、協力し合う姿を大切に、開花そして結実へと着実に支えていきたいと強く思っています。



2日間の大祭だった“ところざわまつり”に出向きました。

子ども達の心と身体に、重松流のお囃子とともに粋で華やかな所沢の豊かな文化が“ふるさと”として培われていく素晴らしさを実感できました。